

日本 4

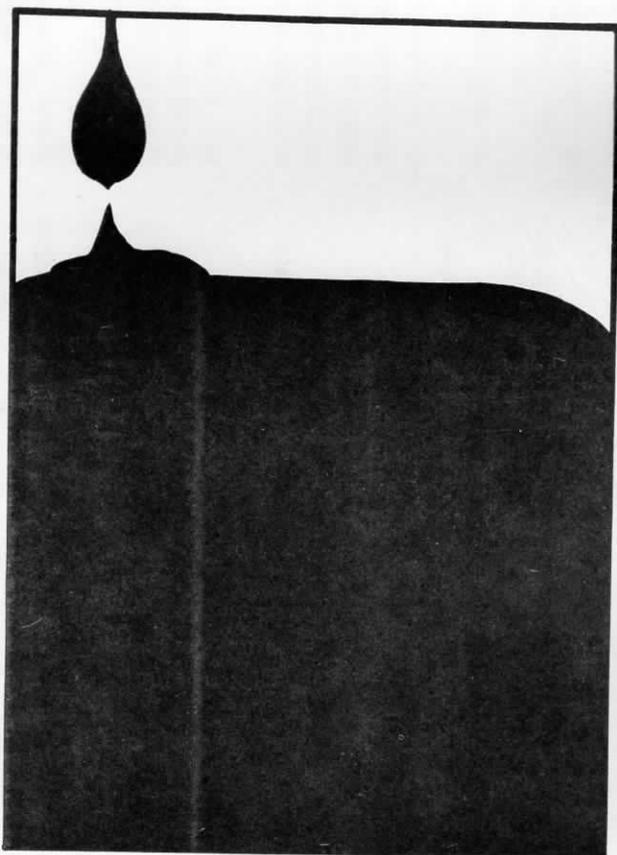
連載

戦後アナキズム運動史年表 3

1956〜1960

ある朝鮮人アナキストの伝記 2

西李 京乙奎 訳



地域合同労組の可能性を探る

北西地域労研

救援組織の確立に向けて

東京地区黒色救援会

子供達と共に——弟へ——

小堀恵美子

衛戍令下の韓国アナキズム運動

尾関 弘

会員制への移行について

反権力・反国家・絶対自由の思想と運動とに関する過去、および現在の文献、資料、運動紙誌を収集・整理し、その完全な保存を図るとともに、利用者に広く公開すること——を目的とした日本アナキズム研究センターが発足して早くも四年目を迎えます。

この間、多くの人々の協力と支援によって書庫の建設、図書収集、蔵書の整理が進められてきました。研究センターの現状は、静岡県富士宮市の龍武一郎方にある五坪余りの書庫に、蔵書はアナキズムを中心とした約二千点の単行本、ダンボール十数箱分の整理途中のミニコミ、パンフ類、雑誌等です。また、昨年十二月から同市内に作業、宿泊、閲覧のために分室が確保され、作業の円滑化が図られています。しかし現在のところまだ公開できる段階には到っていません。

従って、四年目を迎えた研究センターの課題は、まず公開できる体勢をつくっていくことにあります。また、現在の書庫では近い将来図書、文献類を収納しきれなくなり、さらには公開のための物理的条件も現在の建物では不十分であることから、別個に新たな土地と建物を獲得することが必要となっています。これらを含めて、今後の課題を列記すると、

- ① 管理体制を整え、研究センターの実務を円滑に処理できるようにする。
 - ② 専従の管理者の常駐を含む、財政的基盤を確立する。
 - ③ 研究センター公開の計画案を早急に検討する。
 - ④ 独立した土地と建物（書庫、閲覧、宿泊設備）の確保を中心に長期的ないしは中期的な計画を作成する。
- これまでの研究センターの活動は、龍武一郎を中心に有志十数名が活動の実質を担当し、また、研究センターの広範かつ長期的な発展のために相談役として大沢正道・長谷川進・向井孝の各氏に管理・

運営の全般にわたって助言を受けて来ました。その財政的基盤はすべてカンパに依拠し、具体的活動は月一回の例会を中心に、有志の自主的参加と責任に基づいて取り組まれて来ました。

しかし、活動の内容が多岐にわたり、仕事の量も増えつつある現在、増大する通信その他の事務を的確に処理し、運営の円滑化と一層の発展を支える基盤の構築が望まれています。そのためには、従来の有志による活動体勢をさらに発展させていくことが要請されているといえます。こうした現状をふまえ、数次の討議を経て、「会員制」による研究センターの再編成を図ることにしました。会員制によって財政の長期的安定を確保し、同時に専従者体勢を確立し、さらには会員へのサービスマン業務として研究センターの部分的公開を行なうなど、活動の一層の展開を達成したいと考えます。

〈規約〉

目的 日本アナキズム研究センター（以下センターと略す）は、反権力・反国家・絶対自由の思想と運動に関する過去および現在の文献・資料・運動紙誌を収集・整理し、その完全な保存を図るとともに、利用者に広く公開すること、を目的とする。

構成 センターは、センターの目的と活動に賛同し、かつ会費（年間一口二、〇〇〇円以上）を納める者をもって構成する。

活動 1. センターは、目的達成のために必要な諸活動を行う。そのために例会（代表者・龍武一郎）を定期的にもつ。

2. 例会は、会員の自主的参加と責任のもとに運営される。
3. 例会は、会員に対して年一回、活動および会計報告を行う義務をもつ。

一九七四年六月一日

静岡県富士宮市杉田二五二
日本アナキズム研究センター
（代表者・龍武一郎）

1974年

アナキズム 4号

日本アナキズム研究センター

目次

地域合同労組の可能性を探る — 富士地区を具体的に —	北西地域労研	2
救援組織の確立に向けて 子供達と共に — 弟へ —	東京地区黒色救援会 小 堀 恵美子	10 15
衛戍令下の韓国アナキズム運動 ある朝鮮人アナキストの伝記(2) 満州を根拠とする韓国独立運動の基本計画案	尾 関 弘 李 乙 奎 西 京 治・訳	18 24
潮 流(3月~5月のメモ) 活動メモ・機関紙誌・雑誌論文・単行本 五月の新刊紹介『西洋社会主義運動史』		31
論 潮 教育ノート 教育現場の中で 江口幹『メモ・日本の政治的状況』 『性とアナキズム』と雨夜の星と 世界語・エスペラントについて	北 川 鬼太郎 編 集 部 中 村 隆 司 江 藤 敏 和	35
外国のアナキスト・グループ 3 『フリーダム』の過去と現在 日本の革命的アナキスト同志へ ケン・ノブ 中南米紀行 ベネズエラ・アルゼンチン・チリ	はしもとよしはる 小 溝 光 訳 山 本 安 屯	43
戦後アナキズム運動史年表(3) 1956年~1960年	運動史研究会	52
昔風の恋歌 — アナキズムについて —	ポール・グットマン 片 桐エズル・訳	62
編集後記		68